

第5回富士市立東小学校における学校教育の未来を考える会（要旨）

- 1 開催日時 令和6年11月1日（金）午後6時30分～午後8時15分
- 2 開催場所 富士市立東小学校 図書室
- 3 発言要旨 ※参加者の発言は、1回のやりとりにつき1段落で要旨としてまとめています。
【凡例】「・」…参加者の発言 「⇒」…事務局の回答や発言

開会

＜事務局から＞

- ⇒東小学校の来年度の児童数の推定についての説明
- ⇒隣接校選択制度についての検討結果の報告
- ⇒小中一貫校の特徴と実践例、須津小、須津中、東小の築年数等についての説明
- ⇒須津地区（須津小学校・須津中学校）の学校施設が建て替えとなった場合、浮島地区の東小学校の児童も一緒に通う施設一体型小中一貫校として整備する考えについて説明

【質疑応答】※発言主旨ごとに質疑応答をまとめています。

- ・隣接校選択制度について、提案した意図と少し異なる。就学指定校変更と区域外就学について説明があったが、これは、保護者側の都合に合わせられるということだ。そうではなく、隣接校選択制度があれば、子どもがより近くの学校に通えることができることを言いたい。
- ・制度導入の課題について、「制度が複雑化する」とあるが、他市は既に実施している。
- ・説明の中に「選択肢が増えると混乱する」とあったが、現在の高校選びではどこでも選べるが混乱はしていない。学校選択において、「高校だと混乱しないが小中学校では混乱する」というのは納得いかない。
- ・資料には「学校運営協議会制度との矛盾が生じる」とあるが、学校運営協議会には須津中学校長など、東小学校以外の人もあるわけだから「矛盾している」というのは理解ができない。結論として富士市は「隣接校選択制度をやりたくない」という答えだと受け止めた。
- ・東小の状況で言えば、外国人の方が通っている。ここに移り住んできた人がその学校に通っているというだけのこと。隣接地区の人が来たところでそれほど問題にならないと思う。
- ・この地域から学校がなくなる、なくなるという事が一番大きな話だと考えている。
- ・東小学校では、不登校の児童がいない。他校を見れば、学校規模が大きくなればなるほど、目が行き届かなくなりがちで、不登校の児童生徒は増えてくると思う。
- ・同じ学校に長く在籍することは良い面もあるが、学校生活についていけない子をどうするかという課題がある。一度でも既定から外れた子どもは、その9年間小中一貫校に通うという道から外れてしまう。その子が戻るチャンスも与えないのかと考えてしまう。

・富士市は複式学級をやることには否定的なのか。複式学級にするなら学校統合へといった考えのように思える。

⇒以前複式学級が生じていたことが、この「考える会」の立ち上げのきっかけとなっている。

1 度東小学校が複式学級の対象校になったことがあり、今後も複式学級が発生する可能性が高いので「考える会」が継続されている。

・今、複式学級にはなっていない。

⇒それは複式学級の対象ではない状況にあるためである。

・以前解消したのは市から先生を派遣してもらい、先生の数を補充してもらったからだ。それは富士市として複式学級にはしたくないという前提からだと思うが、そうではないのか。

⇒複式学級になると充実した学びができないということで、その年度には複式解消のための加配教員を 1 人配置した経緯がある。

・富士市は、複式学級をやろうと思ったらやるのか。

⇒複式学級を実施するという選択肢も考えられる。ただ、逆に複式学級では心配だと考える家庭が非常に多いと認識している。

・複式学級になったら、先生方が余計に大変になるのではないかと。単学級である今でさえ、色々な仕事があって大変なのに。先生方が心配だ。

・以前、大淵二小が複式学級の対象となることがわかったとき、地域を挙げて複式学級にしないでくれ、と市に陳情に来たことがあった。そこで富士市では複式学級の開設は地域に受け入れてもらえないので、特別に先生を派遣しようという形になったと聞いている。

・松野学園はもともと同じ場所に小・中学校があったから、小中一貫の仕組みに馴染みやすかった。学校になじめず、集団についていけなくなってしまった子どもたちをどうするかということを、地域を挙げて一緒になって協力している話を聞く。

⇒松野学園では、新しい校舎棟を建て、旧校舎と新校舎を連結させる形をとった。旧校舎のなかに地域連携室という部屋がある。コミュニティ・スクールとして学校運営協議会に関わるメンバーや、地域の方々が集まって利用している部屋だが、教室に入れない子どもたちにもここを有効利用させて対応していると伺っている。

・（その部屋は）どれくらいの子どもたちが利用しているのか。

⇒そこまでは把握できていない。学校生活についていけない子がいないことが一番良いのだが、ただ一概に「いなければそれで良い」とも言えないのかもしれない。中には、頑張って何とか登校できているという子もいるかもしれない。そうして頑張らせていることが良いのかという議論もあるし、今後もこの学校で絶対に不登校の児童が出ないとも限らない。もちろん不登校がない事が一番だが、いつそうした子が出てくるかは分からない。どの子にも起こり得ると考えなければいけない。

・東小学校の先生方は非常に頑張ってくださっている。その頑張りがあるから不登校の子どもがいない。しかし、他校を見るとかなり増えている。他市では、見放されてしまっている子どもたちも多く、そうした子どもは公立学校をやめて、私立学校へ流れている。富士市からでは通える私立学校は少ないので、選択肢として隣接校選択制度も検討してほしいと考えた。

・保護者や地域が複式学級を受け入れるかどうかという点が重要だ。複式学級でも良いと考えるのか、複式学級では学びの環境として心配なので、複式学級を解消してほしいと望むのか。どちらがいいのか、本当に分からない。

・最近、オンライン授業という選択肢もある。教員が他校にいて、同じ授業を画面上で受ける、逆に東小から配信して他校の生徒が受ける、といったことがあっても良いではないか。タブレットの配布による GIGA 構想は、人と人とのコミュニケーションが減ることにデメリットはあるわけだが、今は複合的に組み合わせることが可能だと思う。持たせている端末や PC で、どのような利用ができるのかということを検討してもらいたい。

⇒現在は児童生徒が 1 人 1 台の端末を貸与され、インターネット等を活用して探究活動で学びを深めていくことができるようになってきている。おっしゃる通り、技術的に離れた場所からでも交流可能である。端末の活用をして学んでいくことも提案の 1 つだと思う。

・端末の活用などが上手くいっている他の地域の状況等を把握されているか。同じ時期に同じような環境でスタートしているが、地域により活用状況と結果に差が出てきていると思うがどうか。

⇒端末をはじめ、学習環境の改善のために事務局としても研究している。様々な地域の先進事例の把握・共有に努めている。しかし、まだ活用の幅を広げられると考えている。

・東小学校は、教職員だけでなく、地域の方の支援が手厚くて、子どもたちが健やかに育っていることを肌で感じる。保護者や地域の方々のバックアップがすごくある学校であることはこの場でお伝えしておきたい。

・須津小学校と吉永一小学校の境界はどのあたりか。

⇒富士岡の辺りである。富士岡地域は吉永一小の学区であり、赤湊川を境にして須津小学校にいくか、吉永第一小学校へ行くのかが分かれている。

・増川辺りを中心にすれば、4 キロエリアに全て入ってしまうということ。こうしてみると思ったより須津のエリアは狭いなという印象を受ける。

・同一施設の小中一貫校の設置は、松野学園以外に予定されているのか。

⇒はっきりとした計画をしているところはない。

・東小学校についてもはっきりとした計画をしているわけではないということか。

⇒その通り。

・ここ以外に「考える会」で議論している地域はあるのか。

⇒現時点ではない。

・やはり通い易さを考えると、学区の中心辺りに学校があるといいなと思う。地域の資源を効果的、効率的に生かすという事を考えるのであれば、ここから遠くない方がいい。

・小中一貫校は確かに良いと思う。ただ、先ほどの話のように、学校についていけない子が出てくることが考えられる。残念ながら、東小学校から中学へ進学したことで学校に行けなくなってしまう生徒もいる。初めからまとめられてしまうことはどうなのかとも思える。ここで6年間楽しく過ごした思い出があることが、後の人間形成にも良いのではないかなと思う。

・問題なく通える子、環境を大きく変える必要がない子からすれば、小中一貫校がいいと考えるだろう。しかし環境等を変えたい人のためにはなっていない。学校生活が嫌になった子はどうするのかという問題がある。他市では不登校手前の少し気になる子への対応が「病院へ行ってください」となるケースも多いと聞く。

⇒自治体によりやり方は様々だが、教室には入れなくとも、学校に居場所を作るという取組も増えてきている。このことについては、富士市も現在研究中である。先ほど松野学園の地域連携室の紹介があったが、これも先駆けの形と言える。

・小中一貫校の松野学園では、初等部、中等部、高等部の三部に分かれている。さらに3年経つと18歳になり、成人として扱われ、選挙権が与えられる。この年代で政治や地域のことをどの程度考えられるかと考えると、難しい状況にあると思う。18歳で成人というところに標準を作り、教育計画を見直していく必要がある。教育の方向性ということでは非常に難しくなっていると思う。

・この場で議論になる話題ではないと思うが、浮島地区の行政懇談会で、小長井市長に「人口が増えるような政策をとってほしい。人口が減少していく傾向があるのだから、何とかしてほしい。」と申し上げた。

⇒須津中学校は、現在4クラスだが、今後は3クラスになっていく。クラスが増える事は考えにくく、さらに減っていくことが想定される。人口減少の課題は、富士市に限らず、どの自治体でも出ている問題である。いかに減少を食い止められるか、行政でも様々な情報を共有し研究しているところである。

<事務局より>

①今回のここでの発言要旨をWEBに公開していくこと。

②今後も、継続して開催していくこと。

以上2点を確認して閉会。